

アフリカ系アスリートの運動能力に対する言説とステレオタイプ

The theories of locomotive power and stereotype about African athletes

1K05B235

指導教員

主査 石井昌幸先生

横尾 ゆき子

副査 寒川恒夫先生

こんにちは私達がメディアなどで見かけるアフリカ系アスリートの人びとが「人種」として、他と比較して先天的に運動競技に高い適性を持っているかどうかについては、長いあいだ論争がなされてきた。

黒人アスリートの運動能力をめぐる論争には、大きく分けて2つの立場がある。「遺伝主義」、「先天主義」と呼ばれる立場と、「環境主義」、「後天主義」と呼ばれる立場である。素朴な経験主義的実感からすれば、「先天主義」に「人種的特性・優位性」を見て取ることは自然なことかもしれない。しかし、「環境主義」、「後天主義」の立場からは、アフリカ系の人びとは、幼少の頃から貧しい境遇に置かれている場合が多く、また、長い人種的偏見の結果として、社会的上昇が難しく、結果としてスポーツ界や音楽界に成功の道を求めやすいとするという見方をする。わが国においては、日常生活レベルでアフリカ系人種と接することが少ないために、こうしたことが論争の対象となることはほとんどないが、そのため逆に、素朴な人種論がマスメディアにおいても特に問題にされることなく受け入れられている観がある。先にふれた「黒人アスリートの驚異の身体能力」のような言い方は、その代表的な例であろう。本研究では、「アフリカ系アスリートの身体能力」をめぐるこうした論争、またこの論争に絡んでくる黒人に対するステレオタイプを問題視し、そのステレオタイプが時代を越えて再生産される理由を考察対象として、特にアメリカの状況を中心に述べていく。

本論は、導入部と、論争の前提を述べた?、?、その後3章に分かれ、最後に考察を書いている。

後ろ3章は、それぞれ小さな項目を持ち、第1章と第2章で、それぞれの言説の主張を紹介し、最後に日本での人種表象を事例に挙げながら、黒人運動能力について自論を導くまで展開していく。

導入部の延長にある?、?は、人種概念の曖昧さと、黒人アスリートの活躍は数字から見ても確かなものであることを述べ、それを前提に第一章の先天主義の話に入る。第一章の?では遺伝子が人種の差異を決定するという遺伝派の大前提となる証明をする。次に、?で遺伝派である先天主義が、どの程度の説得力を持ったものかがわかるように、科学的研究成果の実例を挙げていく。

そして、黒人は運動能力がすぐれているが、同時に知能の遅れも連想させる、その遺伝派の問題視するところであるステレオタイプの存在と、その歴史を?では述べていく。?では知能と人種の関係性を述べ、様々な知能の概念があるがゆえ、人種と知能を結び付けてしまう恐れを孕んでいるという遺伝派の指摘を載せ、自論としては、どちらの概念も曖昧であるがゆえ、結びつけることは到底できないものであると述べる。また、?では題名の通り、後天主義の決定要因としては弱いことを先天主義を主張する者がそれであるゆえんを述べる。

次に第2章では、後天主義の立場から、本論の論点である主張の根拠を事例を挙げつつ述べ、黒人のスポーツ執着による生活の制限があることも紹介する。また、黒人アスレティズムに不安を憶えたものが行った改善の動きとその不徹底さを後天主義の立場から指摘する。

第3章では、日本のメディアの人種表象から、

自論を述べる。凝り固まった黒人ステレオタイプはかなりの黒人優位に働いているのかもしれないが、やはり、それだけでこんなにちのような活躍の要因であるとは難しいと考えるということを述べていく。

最後に考察部分では、アフリカ系運動能力ス

テレオタイプがなぜ依然として残っているのかという問いに対する答えとして、アフリカ系のスポーツでの成績と様々な科学による実験結果の一致により、人々の疑惑が確たるものとなっていったのではないかということを述べる。